

良質な牛乳と
高い生産力を生み出す
酪農経営に向けて

朝霧メイプルファーム

丸山純



会社概要

朝霧メイプルファーム株式会社

創業1946年

本社 静岡県富士宮市根原

事業内容 生乳出荷 肉用子牛販売

飼養頭数 成牛450頭 子牛100頭

出荷乳量 5000t(2025年)

従業員数 20名



ASAGIRI
MAPLE
FARM

朝霧メイプルファームが果たたい3つのこと

牛乳は愛

私たちの一番の願い

それは牛の健康

それが私たちの愛

たっぷりの栄養は子の成長を願う母牛の愛

牛乳以上に愛のある食品って他にない

牛本位でいこう

牛の為に作らないルールは作らない

牛が辛い時最優先に助けよう

自分の一番大切な人に

安心して飲んでもらえる牛乳をつくろう

酪農は楽しい

酪農って辛い？

私たちは牛の全ての仕事に関わることを楽しんでいます

ふたつの力が私たちを支えています

成長力

マニュアルは重要ではない

失敗した時は根本的な原因を追及する

ルールやマニュアルにとらわれず

やさしい発想で改善し続ける

それが一番大事

実験精神を常に胸に

データに基づいた

考察先進的な試みの導入

酪農には、ワクワクする

無限の可能性が広がっている！

組織力

マニュアルが重要である

牧場のメンバー全員が安全で迷いのない

ハイクオリティな仕事をしている

そんなカッコいい集団をまとめるのが

私たちのマニュアル

話し合おう

一方的に指図されるのは嫌

理由もなくルールが決まるのも嫌

後ろ向きなのも嫌

だからみんなで前向きに話し合おう

朝霧高原が好き

富士山の麓に広がる牧草地帯と牧場

その風景を私達で作っていこう

私たちの明るい挨拶とお互いを気遣うマナーで

牧場を訪れた全ての人をポジティブな気持ちに！

開拓で切り開かれた酪農地帯が

この先もずっと続くように

放棄される牧草地帯をなくそう

注目される牧場らしく社会のルールを守り

地域に愛される牧場になろう

MISSION / VALUE / PURPOSE

つたえる先にあること。

私たちの試みが

酪農業界のレベルを引き上げること。

朝霧高原の素晴らしさ、

酪農の魅力をより多くの人に共感してもらうこと。

安心安全、高品質な牛乳を

より多くの人に届けること。

私たちの試みが

酪農業界のレベルを引き上げること。

朝霧高原の素晴らしさ、

酪農の魅力をより多くの人に共感してもらうこと。

安心安全、高品質な牛乳を

より多くの人に届けること。

朝霧メイプルファーム 本社

静岡県富士宮市根原241-5

TEL 0544-52-0549 FAX 0544-52-0585

E-MAIL saiyou@maplefarm.jp

牧場

静岡県富士宮市麓(ふもと)386

TEL 0544-52-0500

www.maplefarm.jp

経営理念とは？

目的、使命、社会的価値、ビジョンなど会社が何のために存在しているのかを定義

クレドとは？

会社および全スタッフのより所となる行動指針



クレドとマニュアル

クレド・経営理念(抽象)

- ・牛乳は愛
- ・牛のためにならないルールは作らない

マニュアル(具体)

- ・牛に大声を出さない
- ・牛を走らせない

経営理念と具体目標

クレド・経営理念(抽象)

- ・ 地域で循環する農場になる
- ・ チャレンジ精神ある農場！

目標(具体)

- ・ 高乳量を目指す
- ・ 餌代を下げる
- ・ 疾病を減らす

- ・ 目標は状況によって変わる
- ・ 経営理念は不変

クレドづくり ワークショップ

* 失敗した時に大切なことは？	* 成功した時に、重要だったことは？	* メイプルファームで働いている時、どんな状況でいる時が幸せですか？	* 働いていてどんな時が一番悲しい気持ちになりますか？
原因を究明し、繰り返さない仕組みを考える。	実践を大切に、とにかくやってみることを意識している	会議をしていて盛り上がっているとき	仲の良い牛が死んだとき。
まずは反省。次に失敗を繰り返さないための対策を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの存在。 ・積極的に報告や相談を繰り返したこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛がいきいきとしているとき。 ・自分の考えや働きを認めてもらえたと思ったとき。 	牛が死んでしまったとき、やむを得ずはいよになった牛を引き取ってもらうとき
失敗の原因を追求し、次に同じ過ちを繰り返さない工夫をすること。それを全員で共有すること。	事前の準備。 相手の気持ちを考える、先を読む。	牛が普通に暮らしているとき。 牛が健康な証拠。仕事も楽。	死にそうにくるしんでいる牛を見るとき。



朝霧メイプルファームが大切にしていること



牛乳は愛



酪農は楽しい



朝霧高原が好き





牛乳は愛



私たちの一番の願い

それは牛の健康

それが私たちの愛

たっぷりの栄養は成長を願う母牛の愛
牛乳以上に愛のある食品って他にない

牛本位でいこう

牛のためにならないルールは作らない
牛が辛い時最優先に助けよう

自分の一番大切な人に

安心して飲んでもらえる牛乳を作ろう





酪農ってつらい？

私たちは

牛のすべての仕事にかかかわることを楽しんでいます

成長力

組織力

ふたつの力が私たちをささえています



組織力

マニュアルが重要である

牧場のメンバー全員が、安全で迷いのない

ハイクオリティな仕事をする

そんなカッコいい集団をまとめるのが

私たちのマニュアル



組織力

話し合おう

一方的に指図されるのは嫌
理由もなくルールが決まるのも嫌
後ろ向けなのも嫌
だからみんなで前向きに話し合おう



成長力

マニュアルは重要ではない

失敗したときは根本的な原因を追究する

ルールやマニュアルにとらわれず

やわらかい発想で改善し続ける

それが一番大事



成長力

実験精神を常に胸に

データに基づいた考察

先進的な試みの導入

酪農には、ワクワクする

無限の可能性が広がっている！





朝霧高原が好き



富士山の麓に広がる牧草地と牧場

その風景を私たちで作っていこう

私たちの明るい挨拶とお互いを気遣うマナーで、牧場を訪れた
全ての人をポジティブな気持ちに！

開拓で切り開かれた酪農地帯がこの先もずっと続くように
放棄される牧草地をなくそう

注目される牧場らしく社会のルールを守り

地域に愛される牧場になろう



2008-2009年：規模拡大の裏側

- 2008年：創業・法人化と急激な規模拡大
- 2009年：入社当時の現場状況
- 「設備」は整ったが「目的」が不在だった
- どう牛を飼うべきか、何が大切かの共通認識がない



理念なき現場で起きていたこと

- 価値観の共有がないことによる弊害
- 「牛を殴る」という現実
- 何のために牛を飼っているのか分からなかった



「牛乳は愛」 唯一無二の判断基準

- 理念とクレドの策定：迷いのない現場
- 酪農を続ける上で、一番大切なことは何か？への回答
- 技術以前の「文化」としての共有



判断のコンパス：搾乳時間の議論

- 提案：搾乳開始を1時間早めて人の睡眠を確保したい
- 懸念：牛のルーティンが崩れ、負担が増える
- 結論：「牛のためにならないルールは作らない」

社長の独断ではなく、理念によってスタッフが納得



採用のミスマッチ解消：フィルターとしての理念



理念を仕組みへ：独自の評価制度

	Before	After
	従来の評価	理念導入後の評価
評価の軸	作業のスピード、勤勉さ	牛への貢献度（=愛）
必要なスキル	体力、経験、勘	データ分析力、観察眼
具体的な指標	特になし（上司の主観）	乳質データ、疾病発生率、牛のストレスサイン発見数

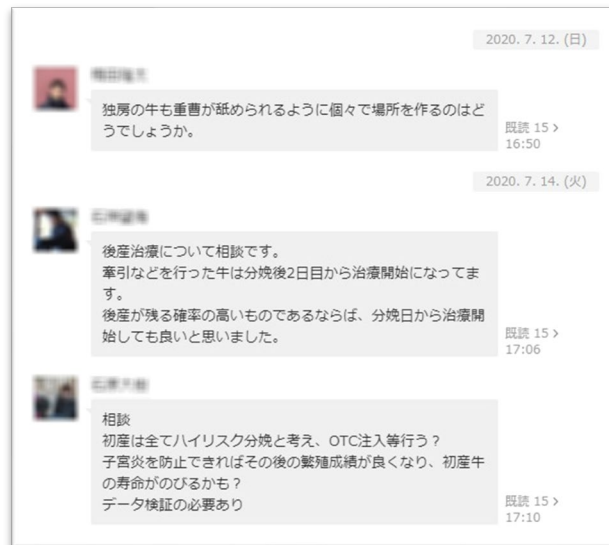


愛は精神論ではなく、
数字と行動で証明できる。

「頑張る方向」が明確になり、評価に対する納得感が向上



先進的な取り組み



LINE WORKS

U motion
 ユーモーション



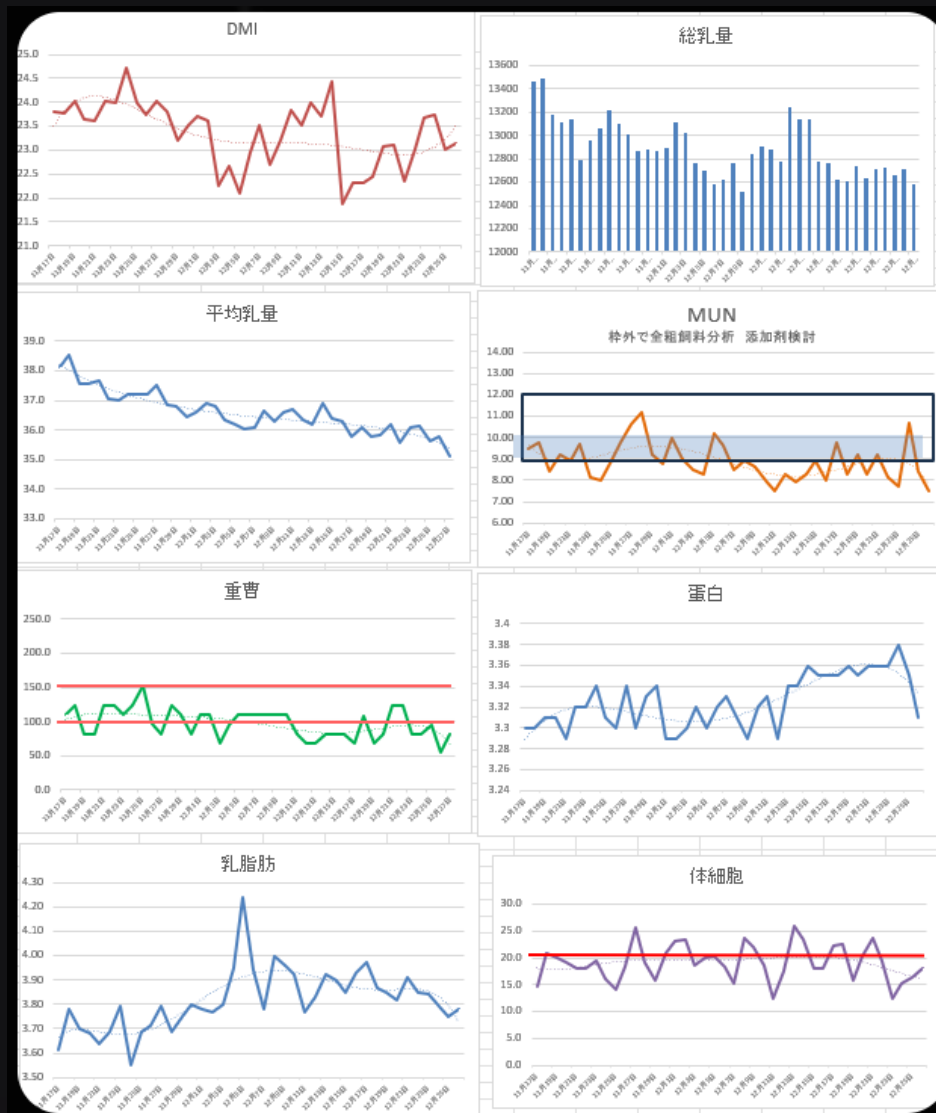
Gemini




RI MAPLE FARM

AI × 酪農

Gemini



グラフはこれです。乳量の減少の理由の考察と対策を一緒に考えてください

≡ Gemini MUNと乳蛋... ✎ 

MUNと乳蛋白の違いを分かりやすく説明して

◆

乳成分の数値は、牛の健康状態やエサのバランスを知るための大切なバロメーターですよ。特に**MUN（乳中尿素態窒素）と乳蛋白（乳蛋白質率）**は、どちらも「窒素」に関係していますが、その意味合いは大きく異なります。

一言でいうと、**「乳蛋白は牛が吸収できた栄養の結果」であり、「MUNは使いきれなかった栄養の残りカス」**です。

1. 乳蛋白（にゅうたんぱく）とは？

乳蛋白は、牛が食べた飼料のタンパク質が、胃（ルーメン）の微生物や小腸で分解・吸収され、最終的に**「牛乳の成分」として合成されたもの**です。

- **役割:** 牛乳の質（乳質）を高め、乳価にも影響します。
- **理想の状態:** 牛が十分なエネルギーを摂取し、タンパク質を効率よく体内で活用できていると数値が安定します。

2. MUN（乳中尿素態窒素）とは？

MUN（Milk Urea Nitrogen）は、体内で使いきれなかった窒素が血液を通過して乳の中に排出されたものです。

- **役割:** **「エサのバランスの良し悪し」**を判定する指標です。
- **発生する仕組み:** ルーメン内で分解されたタンパク質（アンモニア）に対して、それを合成するためのエネルギー（炭水化物など）が足りないと、余った窒素が尿素として排出されます。





◆ 思考プロセスを表示

メイプルファームのデータをご共有いただきありがとうございます。丸山社長、グラフを拝見しました。

結論から申し上げますと、「ルーメン内のタンパク質不足（特に分解性タンパク）」がボトルネックとなり、乾物摂取量（DMI）と乳量の低下を招いている可能性が高いと分析します。

以下に、グラフから読み取れる現状の分析と、具体的な対策案をまとめました。

1. 現状の分析：なぜ乳量が下がっているのか？

グラフ間の連動性を見ると、以下の**「負のスパイラル」**が起きていると考えられます。

1. MUN（尿素窒素）の低下が起点

- 現象: MUNのグラフ（右列上から2番目）を見ると、基準線（おそらく10前後）を下回り、8.0 mg/dL付近やそれ以下で推移している日が多く見られます。
- 意味: ルーメン内の微生物が活動するために必要な「アンモニア（窒素）」が不足しています。

2. 消化速度の低下とDMIの減少

- 現象: DMI（左列一番上）が12月に入ってから乱高下しつつ、全体的に低下傾向（24kg台→22kg台へ）にあります。
- メカニズム: MUNが低い（窒素不足）と、繊維を分解する微生物の活動が鈍ります。すると食べた草がルーメン内に長く滞留し、お腹が空かないため、食い込み（DMI）が落ちます。

3. 乳量の低下と乳成分の濃縮



2. 対策：どうすれば回復するか？

一番の鍵は**「ルーメン微生物への窒素補給（MUNの回復）」**です。微生物が元気になれば、消化が早まり、DMIが戻り、乳量も回復するはずですが、

【即効性のある対策】

- **分解性タンパク（RDP）の増給**
 - ルーメンですぐにアンモニアになるタンパク質源を少し足してください。
 - **具体策:** 大豆粕や菜種粕などのタンパク飼料を**0.5kg～1kg程度増やす**、あるいは（配合設計が可能であれば）尿素などのNPN（非タンパク態窒素）を慎重に少量添加するのも手です。
 - **目標:** まずはMUNを**10～12 mg/dL程度まで戻す**ことを目指します。

【確認すべき点】

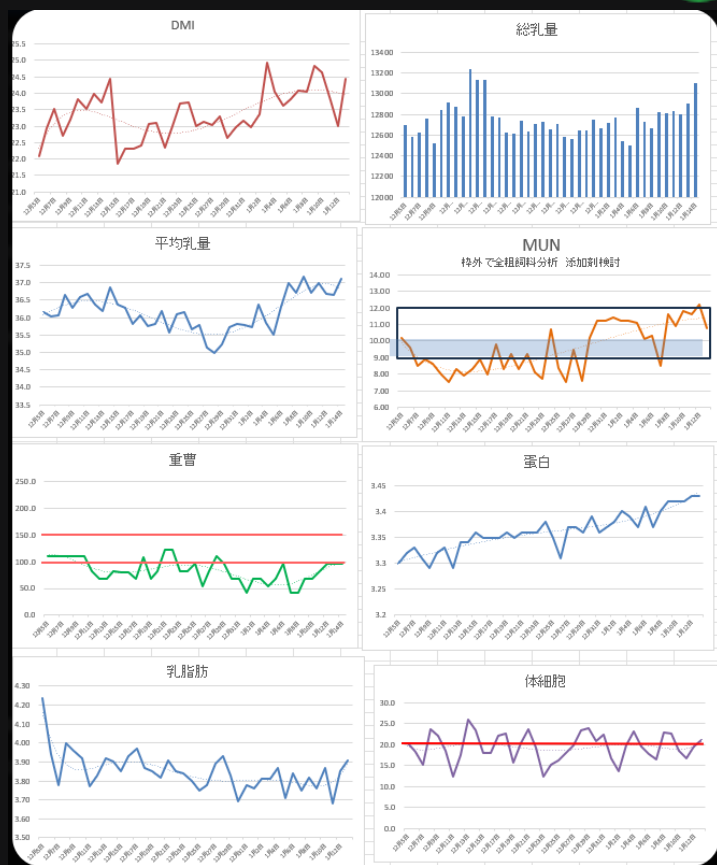
- **粗飼料の成分変化（一番草、二番草の切り替えなど）**
 - MUNのグラフに「枠外で全粗飼料分析」というメモがありますが、まさにここが重要です。ロットが切り替わって、想定よりも牧草のタンパク値が低くなっている可能性があります。
- **デンプン（穀物）とのバランス**
 - もし最近、トウモロコシなどの穀物を増やしたのであれば、それに対してタンパク質が足りていない可能性もあります。

まとめ

「牛は食べたがっているが、お腹の中の微生物がガス欠（窒素不足）で動けず、消化が進まないために食べられない」という状態に見受けられます。

まずは**「タンパク質飼料を少し盛る」**というアプローチで、MUNとDMIの反応を見ていただくのが良いかと思います。





そのような対策をした結果、このように変化しました。この変化をまだ経験の浅い牧場の従業員に説明するために、何が起きたのか丁寧に説明して

思考プロセスを表示

丸山社長、素晴らしい結果ですね！おめでとうございます。

A I × 酪農

丸山社長、素晴らしい結果ですね！おめでとうございます。

グラフを見ると、前回の「MUN（尿素窒素）低下による乳量減少」という仮説に基づいて対策された結果、見事なV字回復を遂げているのが一目瞭然です。

この事例は、経験の浅い従業員の方にとって、「牛の生理機能（ルーメン）」と「飼料設計」がどう繋がっているかを学ぶ、またとない教科書になります。

以下に、従業員の方への説明用に、今回の変化を**「3つのステップ」**で分かりやすく解説するストーリーを作成しました。教育用の資料としてお使いください。

従業員への説明：なぜ乳量が増えたのか？

今回のグラフの変化は、**「牛のお腹の中の『微生物』を元気にしたら、牛も元気になって乳量が増えた」**という成功事例です。何が起きたのか、順を追って見ていきましょう。

1. 何が起きていたのか？（問題点：ガス欠）

- **グラフの注目点:** 12月中旬～下旬のグラフを見てください。「平均乳量」がどんどん下がって（35kg付近まで低下）、同時に「MUN（尿素窒素）」も低い状態（8～9 mg/dL）が続いていました。
- **牛の体内の状態:** これは、牛の第1胃（ルーメン）にいる微生物たちの**「ご飯（タンパク質・窒素）」が足りていない状態**でした。





AI × 酪農

- **牛の体内の状態:** これは、牛の第1胃（ルーメン）にいる微生物たちの**「ご飯（タンパク質・窒素）」が足りていない状態**でした。
- **影響:** 微生物が空腹で働けなくなると、食べた草の消化が進みません。すると牛はお腹が空かなくなり、食欲（DMI）が落ちて、その結果、ミルクを作る材料が足りずに乳量が減ってしまったのです。

2. 何をしたのか？（対策：燃料補給）

- **アクション:** そこで私たちは、餌のメニューを見直し、微生物のエネルギー源となる「タンパク質」を補給する対策を行いました。
- **グラフの変化:** 1月に入ってから「MUN」のグラフを見てください。オレンジの線がグッと上がって、適正範囲（10~12 mg/dL付近）まで回復していますね。これは微生物に栄養が行き渡った証拠です。

3. その結果どうなったか？（結果：V字回復）

- **メカニズム:** 栄養をもらった微生物が元気になり、草をバリバリ分解し始めました。
- **グラフの成果:**
 1. 消化が早まったので、牛がお腹を空かせて餌をたくさん食べるようになりました（DMIが24kg台へ回復）。
 2. たくさん食べて栄養状態が良くなったので、乳量も見事にV字回復しました（35kg台 → 37kg付近へ）。



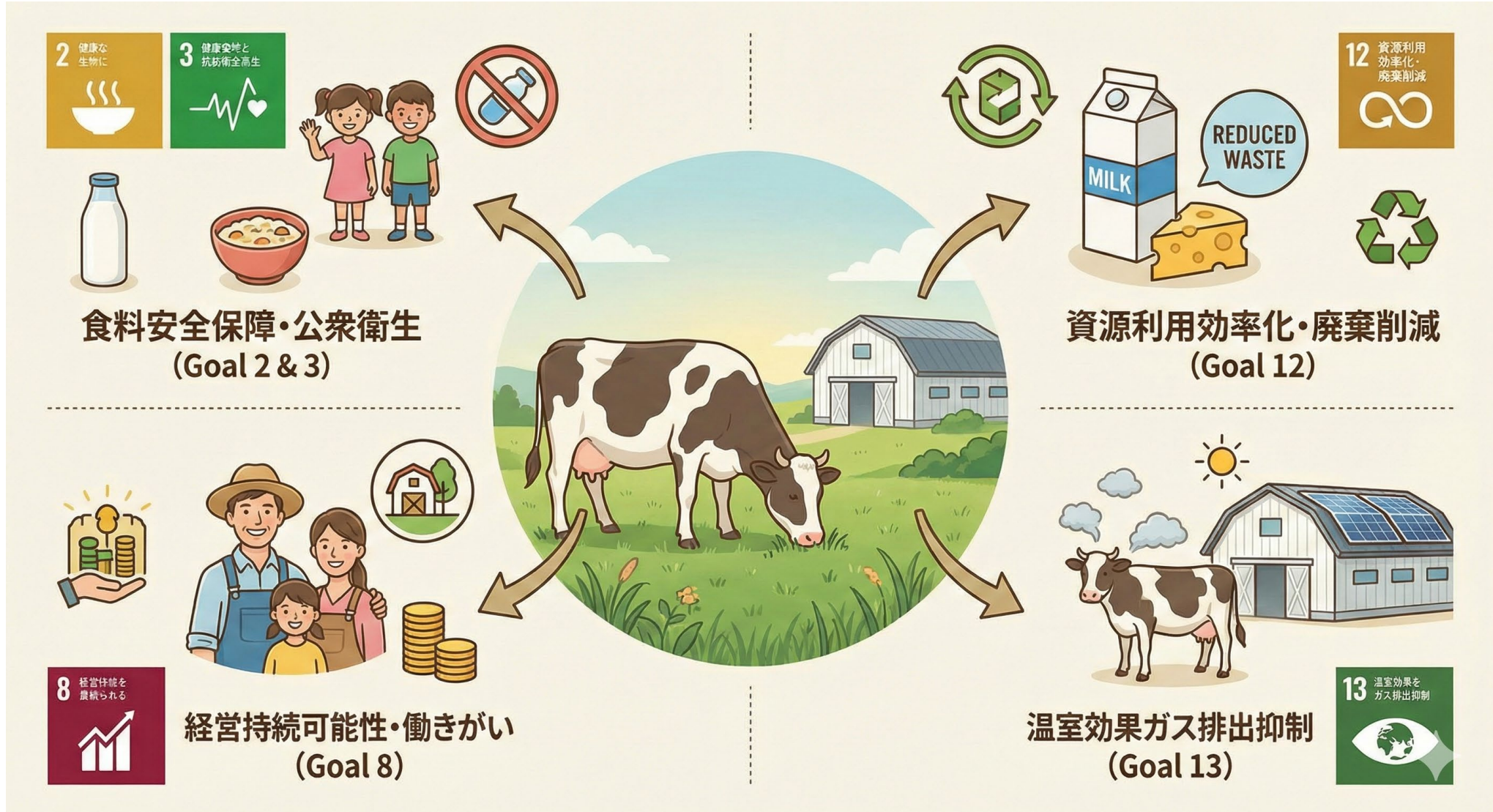
A I × 酪農 に必要なもの

日	乳量(kg)	5日平均	搾乳頭数	搾乳時間	kg/頭	乳房炎	抗体	初乳	A	B	C	前期	後期	総乳	総頭数	脂肪	無脂固形	蛋白	乳糖	体細胞	MUN	desova	mixed	preformed	PF値	TMR 作成頭数	ルーサン	スーダン	クレイン	オーツ	サイレーン ^g
1月4日	13101	269.8	367	14	37.1	4	3	7	168	161	38	31	34	65	432	3.85	8.83	3.43	4.57	26.1	11.4	0.91	1.22	1.43	0.89	350	1005	745	700	745	3410
1月5日	12924	33.4	367	15	36.7	5	4	6	168	160	39	44	35	73	446	3.9	8.87	3.45	4.59	21.2	10.4	0.93	1.29	1.37	0.88	340	980	715	680	725	3270
1月6日	12766	-147.4	367	13	36.1	5	4	4	166	159	42	46	35	81	448	3.9	8.91	3.41	4.58	19.9	11.7	0.91	1.22	1.42	0.87	335	965	705	670	705	2805
1月7日	12587	-31.3	366	14	35.8	6	3	5	167	159	40	46	34	80	446	3.9	8.83	3.41	4.59	21	11.3	0.86	1.26	1.5	0.87	335	975	710	680	715	3480
1月8日	12688	31.2	366	9	36.1	6	2	1	166	166	34	47	34	81	447	3.81	8.79	3.35	4.57	19.9	9.7	0.88	1.14	1.51	0.88	340	980	715	680	725	3270
1月9日	13086	242.8	367	10	36.7	5	2	3	166	166	35	43	36	79	446	3.83	8.77	3.33	4.54	16.9	9.2	0.88	1.16	1.52	0.87	340	980	715	680	725	3270
1月10日	13132	279.8	367	10	36.8	4	3	3	166	166	35	44	35	79	446	3.81	8.78	3.32	4.55	17.9	9.4	0.87	1.09	1.54	0.87	345	995	730	690	730	3450
1月11日	12928	34.2	368	13	36.4	5	4	4	165	164	39	45	34	79	447	3.83	8.76	3.33	4.53	21.5	10.2	0.89	1.15	1.49	0.87	345	995	730	690	730	3450
1月12日	13006	79.8	366	12	36.7	6	3	3	164	163	39	47	33	80	446	3.82	8.85	3.4	4.56	19.6	10.8	0.94	1.24	1.24	0.89	350	1000	730	690	740	3500
1月13日	12973	-37	366	11	36.5	6	3	2	164	162	40	40	41	81	447	3.83	8.8	3.38	4.54	22.5	11.4	0.92	1.15	1.47	0.88	355	1020	755	710	755	3550
1月14日	12659	-368	367	13	35.8	6	3	4	165	162	40	39	38	77	444	4.01	8.77	3.38	4.52	23.9	11.8	0.91	1.32	1.53	0.84	350	1000	740	700	740	3500
1月15日	12748	-181.6	368	15	36.1	8	2	5	165	162	41	39	37	76	444	3.76	8.8	3.36	4.54	20	9.8	0.89	1.14	1.45	0.89	345	995	730	690	735	3450
1月16日	12861	-1.8	369	16	36.4	8	3	5	165	162	42	39	37	76	445	3.81	8.82	3.38	4.56	19.9	10.7	0.9	1.15	1.47	0.89	350	1000	730	690	740	3500
1月17日	12976	126.6	372	19	36.8	9	3	7	167	161	44	32	42	74	446	3.87	8.83	3.37	4.55	18.5	11.6	0.91	1.18	1.51	0.87	350	1000	730	690	740	3500
1月18日	12865	21.6	368	21	37.1	10	4	7	165	167	46	32	41	73	441	3.81	8.8	3.36	4.54	16.7	10.7	0.9	1.18	1.48	0.88	350	1000	730	690	740	3500
1月19日	12870	48.2	367	19	36.9	9	4	5	166	161	40	35	41	76	443	3.89	8.79	3.36	4.56	16	8.8	0.9	1.15	1.5	0.87	345	995	735	690	735	3450
1月20日	12920	56	366	18	37.1	11	3	4	167	161	38	35	40	75	441	3.85	8.83	3.39	4.57	19.8	9.7	0.9	1.18	1.45	0.88	345	1010	730	700	730	3450

- 膨大な量の基礎データ
- データ化できない事象への観察眼
- 「何をしたいか？」ゴールを想像し言語化する能力
- 判断のための知識と経験
- 問題を解決できる能力

• 牛をより健康にしたいという愛情・情熱







石原大樹

既読 12 >
14:19

ハエが出始めました。
おから場からこぼれたところに大量のウジがいました。
ここの修繕を優先的に行いたいです

既読 12 >
14:20

新規投稿の作成

3 最近の投稿

☑ 必読

☆ 重要投稿

MY マイ投稿

🔍 掲示板名を検索

📄 哺乳牛アイコンま...

📄 蹄まとめ

📄 繁殖ミーティング

📄 オカラ掲示板

📄 重機整備管理

📄 草地管理

📄 HACCP

レポート

📄 事故・ミス掲示板

📄 雑誌書籍情報 レポ...

📄 場外研修 レポート

📄 決算報告

📄 お知らせ

📄 自由掲示板

📄 幹部会議

📄 教育・成長



石神望海 牛管理

2025. 4. 26. 16:36 · 既読 10

編集を許可：OFF (投稿の作成者および掲示板マスターのみ編集可能)

更新情報：丸山純 · たった今 >

○施肥

●冬に撒いた液肥の効果が出てきています。

昨年から施肥に力を入れて、今の畑の状態を見て感じたことがあります。

- ・ 11月～12月の1回だけ施肥した畑は草の伸びが良くない。(ポンプ、折山)
- ・ 上記の施肥+3月に追加で行った場合は伸びが良い。(農協、ファミマ横)
- ・ 全面更新した畑は1回の施肥だけでもよく伸びる？耕したから？(松下)





長谷川育江

初生牛舎の保温のために、果樹園用に売られているような、遮熱シートを活用してみるのはいかがでしょうかと思いました。

アルミでできていて、ヒーターの上あたりにかぶせるようにすると、保温効果が高いそうです。

一応、冬は熱を逃さない・夏は熱を入れないということで使えるという話を聞きました。

農協などで取り扱われていて、1.5m×50mで一万円強くらいだそうなので、そこまでコストかからずにできるように思います。



主役のスタッフたち

